

| | | | | | |
|---|--|--|--|----------------------------------|---------|
| 小山工業高等専門学校 | | 開講年度 | 平成29年度 (2017年度) | 授業科目 | 国語 (3年) |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | 0001 | | 科目区分 | 一般 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 | |
| 開設学科 | 建築学科 | | 対象学年 | 3 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 『国語表現』 『国語表現準拠ノート』 (京都書房)、 『パスポート国語必携国語常識の演習と確認 (三訂版)』 (桐原書店) | | | | |
| 担当教員 | 山崎 明 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 1. 日本語の特質を理解し、適切な運用と表現ができる。 2. 日本語表現に関する知識を身に付け、実践に活かすことができる。 3. 読み手を意識して、文章を書くことができる。 4. 自らの言語能力を有機的に連関させ、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 日本語の特質を明確に理解し、正確に適切な運用と表現ができる。 | 日本語の特質を理解し、適切な運用と表現ができる。 | 日本語の特質を明確に理解できず、正確に適切な運用と表現ができない。 | | |
| 評価項目2 | 日本語表現に関する知識を身に付け、正確に実践に活かすことができる。 | 日本語表現に関する知識を身に付け、実践に活かすことができる。 | 日本語表現に関する知識を身に付け、正確に実践に活かすことができない。 | | |
| 評価項目3 | 読み手を明確に意識して、正確に文章を書くことができる。 | 読み手を意識して、文章を書くことができる。 | 読み手を明確に意識できず、正確に文章を書くことができない。 | | |
| 評価項目4 | 明確に自らの言語能力を有機的に連関させ、他者と円滑なコミュニケーションを正確にとることができる。 | 自らの言語能力を有機的に連関させ、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。 | 明確に自らの言語能力を有機的に連関させることができず、他者と円滑なコミュニケーションを正確にとることができない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 学習・教育到達度目標 ⑥ | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 国語表現に関わる基本的な知識を身に付け、特に話す・聞く・書く・読むという言語活動に関わる実践的能力を伸ばすことを目的とする。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 授業は講義・演習形式で行う。適宜、『Sメソッドによる伝え合う力のトレーニング』(本校教員)を用いる。 | | | | |
| 注意点 | 前期(中間・期末)試験を35%程度、課題提出物・小テストを35%程度、口頭発表を30%程度で評価する。その他に授業に対する取り組みへの積極性、漢検や作文コンクールにおける入賞なども、その内容に応じて評価に加える。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 1. ガイダンス、自己紹介文 | 授業の進め方・評価方法について理解する。 | |
| | | 2週 | 2. 日本語の基礎①(言葉の歴史) | 言葉の歴史を理解する。 | |
| | | 3週 | 3. 日本語の基礎②(言葉の歴史) | 言葉の歴史を理解する。 | |
| | | 4週 | 4. 日本語の基礎③(文章の変遷) | 文章の変遷を理解する。 | |
| | | 5週 | 5. 日本語の基礎④(語彙) | 日本語の語彙について理解する。 | |
| | | 6週 | 6. 口頭表現①(メモスピーチ) | 表現の方法(口頭表現・論理構成)を理解する。 | |
| | | 7週 | 7. 口頭表現②(メモスピーチ) | 表現の方法(口頭表現・論理構成)を理解する。 | |
| | | 8週 | 8. 前期中間試験 | これまでの範囲を理解する。 | |
| | 2ndQ | 9週 | 9. 試験答案の返却と解答 | 試験の解答を理解する。 | |
| | | 10週 | 10. 文章表現①(名文と悪文) | 名文と悪文について理解する。 | |
| | | 11週 | 11. 文章表現②(話し言葉と書き言葉) | 話し言葉と書き言葉について理解する。 | |
| | | 12週 | 12. 文章表現③(文体) | 日本語の文体について理解する。 | |
| | | 13週 | 13. 文章表現④(レトリック) | 日本語のレトリックについて理解する。 | |
| | | 14週 | 14. 文章表現⑤(結構と脈略) | 日本語の結構と脈略について理解する。 | |
| | | 15週 | 15. 課題①(意見文を書く) | 表現の方法(文章表現・論理構成)を理解する。 | |
| | | 16週 | (前期定期試験)、試験答案の返却・解説 | これまでの範囲を理解する。 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 1. 文章表現⑥(敬語) | 敬語について理解する。 | |
| | | 2週 | 2. 課題②(通信文を書く・手紙文) | 表現の方法(表現・論理構成)を理解する。 | |
| | | 3週 | 3. 口頭表現③(聞く力) | 表現の方法(口頭表現・傾聴・客観的分析)を理解する。 | |
| | | 4週 | 4. 口頭表現④(インタビュー) | 表現の方法(口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析)を理解する。 | |
| | | 5週 | 5. 文章表現⑦(達意、目と耳と頭に訴える) | 日本語の達意について理解する。 | |
| | | 6週 | 6. 課題③(随筆を書く) | 表現の方法(文章表現・論理構成)を理解する。 | |
| | | 7週 | 7. 文章表現⑧(文章構成、論証) | 文章構成と論証について理解する。 | |
| | | 8週 | 8. 課題④(実用文を書く・履歴書) | 表現の方法(文章表現・論理構成)を理解する。 | |
| | 4thQ | 9週 | 9. 口頭表現⑤(ディベート) | 表現の方法(口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析)を理解する。 | |
| | | 10週 | 10. 口頭表現⑥(ディベート) | 表現の方法(口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析)を理解する。 | |

| | | | | |
|--|--|-----|-------------------|------------------------------------|
| | | 11週 | 11. 口頭表現⑦ (ディベート) | 表現の方法 (口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析) を理解する。 |
| | | 12週 | 12. 口頭表現⑧ (ディベート) | 表現の方法 (口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析) を理解する。 |
| | | 13週 | 13. 口頭表現⑨ (ディベート) | 表現の方法 (口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析) を理解する。 |
| | | 14週 | 14. 口頭表現⑩ (ディベート) | 表現の方法 (口頭表現・傾聴・論理的思考・客観的分析) を理解する。 |
| | | 15週 | 15. 提出物の返却と評価 | この授業の評価について理解する。 |
| | | 16週 | | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 | |
|-------|---------|------|---|---|-----|--|
| 基礎的能力 | 人文・社会科学 | 国語 | 国語 | 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。 | 3 | |
| | | | | 代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。 | 3 | |
| | | | | 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。 | 3 | |
| | | | | 文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。 | 3 | |
| | | | | 鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章 (詩歌、小説など) の創作をとおして、感受性を培うことができる。 | 3 | |
| | | | | 読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。 | 3 | |
| | | | | 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。 | 3 | |
| | | | | 情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。 | 3 | |
| | | | | 他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。 | 3 | |
| | | | 相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。 | 3 | | |
| | | | 社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。 | 3 | | |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 35 | 30 | 0 | 0 | 0 | 35 | 100 |
| 基礎的能力 | 35 | 30 | 0 | 0 | 0 | 35 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |